

(配布先)
支店長・副支店長
施工担当部署長・建設所長
副部長・副所長・統括工事長
安全長・安全主任
工事長・工事主任
関西支店取引業者災害防止協議会

事務連絡(安-2024-30)
令和6年9月24日

関西支店 安全環境部長

令和6年「秋季火災予防運動」の実施について(要請)

火災の発生しやすい季節を迎えるにあたり、消防庁主唱による令和6年「秋季火災予防運動」が実施されます。

当社作業所においては、別紙1のとおり、季節を問わず溶接・溶断作業等での火気使用管理の不徹底等による火災発生が絶えません。また、令和5年5月20日には、充電器からの発火という新たな原因による火災の発生がありました。

これを機に、作業所における防火管理体制及び自衛消防隊組織の整備とその機能・役割の再徹底、並びに下記事項の実施を徹底するよう要請します。

特に、竣工間際の火災はダメージが大きく、得意先に多大なご迷惑をかけるだけでなく、社会的信用の失墜にもつながりますので、火災防止に向けて隙のない管理の徹底をお願いします。

記

1. 期間 令和6年11月9日(土)～11月15日(金)
2. 全国統一防火標語(令和6年度)
“守りたい 未来があるから 火の用心”

3. 作業所の重点実施事項

(1) 次の事項の見直しと再徹底

- a. 改修工事及び増築工事の既存取合部における「火なし工法」採用の徹底
- b. 溶接・溶断等の火気使用作業時の防火対策と終了時の点検・確認、及び相当時間経過後の点検体制の確立
- c. 発泡スチロールの使用・保管に関するルールの徹底
- d. ウレタンフォーム施工済み場所での火気使用厳禁の徹底
 - ・火なし工法の徹底もしくは十分な隔離距離確保
 - ・照明器具、仮設電線等熱源となるものを近づけない
- e. 事務所・休憩所・宿舍等の防火対策
- f. 消火設備・器具の適正配置と保守管理
- g. 不審火対策(特に夜間・休日の部外者侵入阻止対策)
- h. 火災発生時の即時119番通報の徹底
- i. 充電器コードリールによる火災防止(破損物の使用禁止、周囲の可燃物の除去)

(2) 防火点検表(別紙2)を利用した一斉点検並びに通報・避難及び初期消火訓練の実施

以上

※添付資料: 過去の重大な火災事例

参考資料: ①安全部ホームページ

→ 各種資料 → [ウレタン等の火災防止\(示達10-13\)](#)

② [事務連絡23-09](#)

当社発生火災の分析

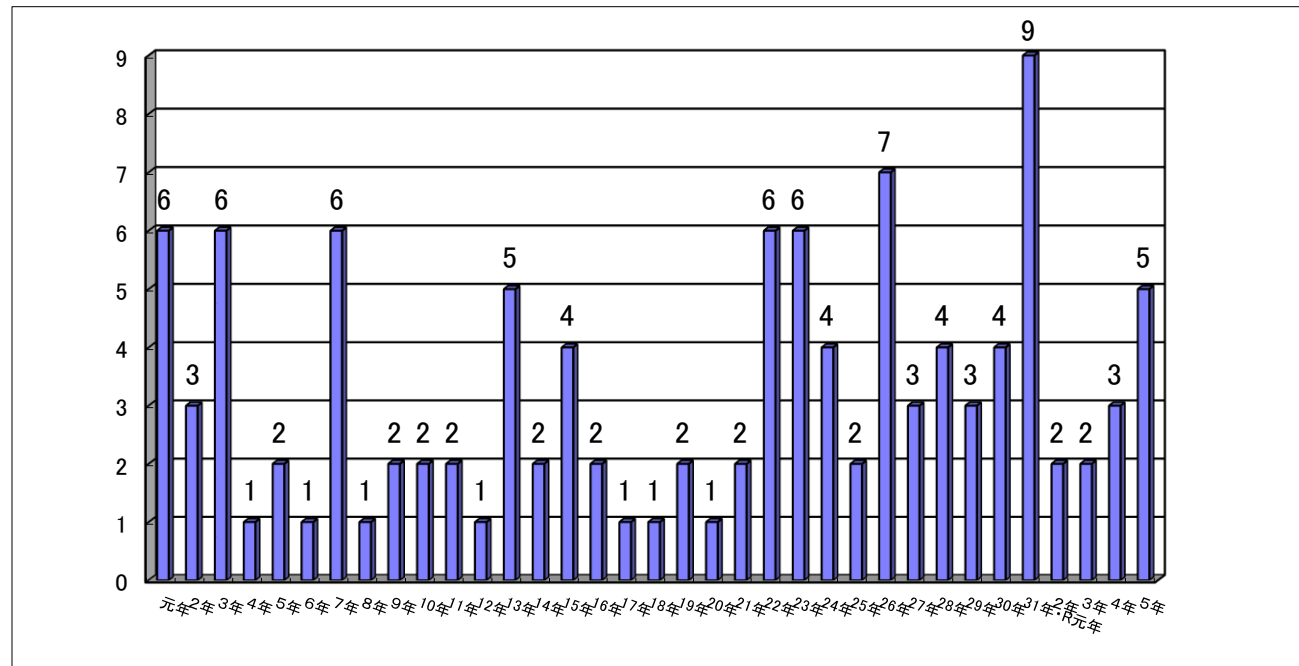
**** 過去36年間で114件発生 ***
(平成元年～令和6年)

R6.9.16現在

(1) 発生推移

年	発生件数
元年	6
2年	3
3年	6
4年	1
5年	2
6年	1
7年	6
8年	1
9年	2
10年	2
11年	2
12年	1
13年	5
14年	2
15年	4
16年	2
17年	1
18年	1
19年	2
20年	1
21年	2
22年	6
23年	6
24年	4
25年	2
26年	7
27年	3
28年	4
29年	3
30年	4
31年・R元年	9
2年	2
3年	2
4年	3
5年	5
6年	1

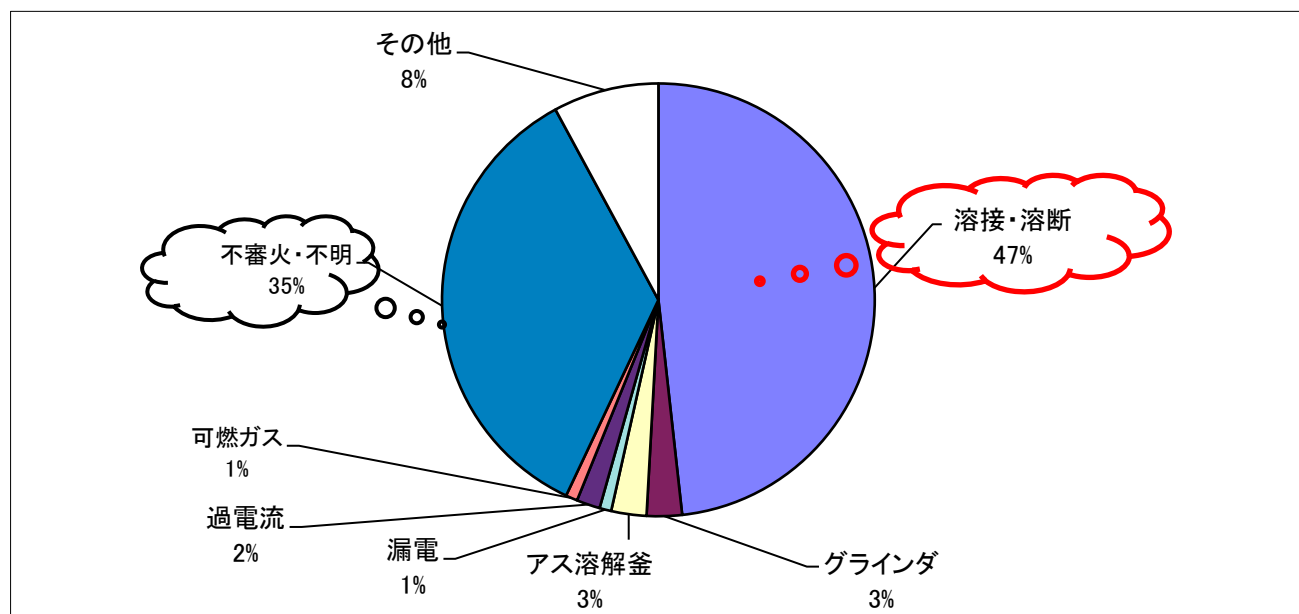
計 114



(2) 発生原因

原因	発生件数
溶接・溶断	55
グラインダ	3
アス溶解釜	3
漏電	1
過電流	2
可燃ガス	1
不審火・不明	40
その他	9

計 114

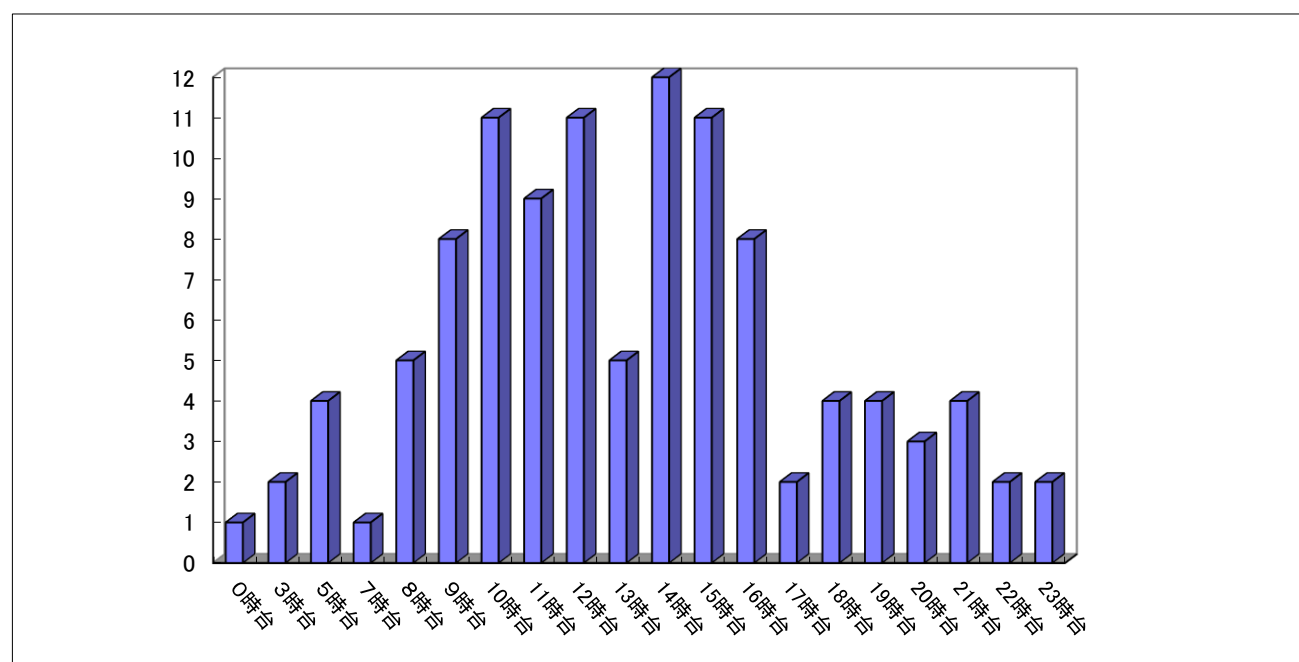


(3) 発生時間帯

(時間不明5件を除く)

時間帯	発生件数
0時台	1
3時台	2
5時台	4
7時台	1
8時台	5
9時台	8
10時台	11
11時台	9
12時台	11
13時台	5
14時台	12
15時台	11
16時台	8
17時台	2
18時台	4
19時台	4
20時台	3
21時台	4
22時台	2
23時台	2

計 109



点検月日： 月 日 ()

防火点検表

全国統一防火標語

・・・ 火を消して 不安を消して つなぐ未来 ・・・

統責者 ・ 元方管理者	点検者
-------------	-----

(結果欄の表示 ○：良好 ×：要是正 /：該当なし)

点検項目		結果	点検項目		結果	
組織・計画	防火管理者の選任・届出		場内	消火器等の消火器具配置		
	消防計画・届出					
	防火管理組織・自衛消防組織					
	改修・取合工事での火なし工法採用					
教育等	火気使用作業時のルールと周知		溶接・溶断作業	ボンベ・ホース・器具の管理		
	通報・避難・初期消火訓練の実施			資格の確認		
機材・用具	救急法の訓練		火気使用の届出・監視体制			
	消火器等消火器具の維持管理		作業場所及び周辺の可燃物の除去・防護措置			
	救急用具・材料の整備(救急箱・担架等)		火花受け等の飛散防止措置			
	通報設備		消火器等消火器具の手元配置			
事務所・詰所等	電動工具の充電器と充電電池は純正又は正規品となっているか		発泡スチロール	作業終了時の報告・時間経過後の点検確認体制		
	コードリールはキャブタイヤコードを全て引き出しているか			強風時対策		
	厨房ガス設備			ウレタン	使用・保管する方法、場所、責任者の確認	
	暖房器具の管理・取扱状況				使用・保管場所付近での火気使用禁止	
電気配線		ルールの掲示				
たばこの吸ガラ処理		消火設備の設置				
宿舍	避難用通路の確保		危険物	ウレタン施工時の火気使用禁止と表示		
	避難階段・避難器具			ウレタン材料の管理		
	消火器等消火器具の配置			施工箇所の火気厳禁表示		
	厨房ガス設備			その他	消防署への届出(指定数量の1/5以上)	
	暖房器具の管理・取扱状況				貯蔵の場所・容器・数量等の管理	
	たばこの吸ガラ処理				貯蔵場所の消火器具配置	
	電気配線				メタン等可燃性ガス等の濃度測定管理	
避難用通路の確保・表示		有機溶剤使用作業中の火気管理				
避難階段・避難器具・表示		電動カッター・グラインダー等使用時の火花飛散防止対策				
消火器具・警報設備 (設置場所と使用方法の周知を含む)		トーチランプ・ガスバーナの使用管理				
通報・避難訓練		アスファルト防水作業の管理(溶解釜等)				
喫煙	喫煙場所の指定と管理		その他	爆発危険の予測される工事における火気の携帯禁止(ライター等)		
	歩行中のくわえたばこ禁止の徹底			場内安全通路(避難通路)の確保		
	喫煙指定場所の消火器具配置			その他火気使用時の防火対策		
要是正事項及び措置				充電場所での周囲可燃物の除去		
				不審火対策(特に夜間・休日)		
				確認		

(注) 作業所の実態に合わせて点検項目を追加・削除し、利用してください。

<添付資料> 過去の重大な火災事例

【当社事例1】

発生日時：平成23年5月18日（水） 午後1時30分頃
発生場所：冷蔵庫棟 1階

【火災の発生状況】

- ・キーストン天井吊ボルトの振れ止め補強溶接作業中、溶接火花が落下し、1階スラブ上に仮置きしていたスタイロフォームに引火し、燃え広がった。
- ・溶接火花はキーストン天井と区画壁との隙間、もしくは吊ボルトの切り欠き部分の隙間のいずれかより落下（詳細は調査中）
- ・13:30頃 火災発生。
作業員を避難させるとともに、消防署に連絡
- ・14:00 消防車が到着し消火活動開始
- ・17:40 消防車放水作業を一旦中断
- ・18:30 放水作業再開
- ・20:30 鎮火



【当社事例2】

火災事故 2010.11.26(金)



地下基礎工事中、型枠建込用のセパ受け金物を溶接取付中、レベルコンクリート下に打ち込んでいた発泡スチロールに引火した。
消火器で消火作業をしたが鎮火せず、10分後 消防車が到着し消火した。
発泡スチロール 約30m³焼失 場内各所及び隣地建物2棟 煤汚れ

<添付資料> 過去の重大な火災事例

【他社事例1】

他社 火災事故 2018.7.26 (木)



火災のあったビルの構造と死亡者の発見場所

地上 地下

3F 1人死亡

2F

1F

B1 風煙が発生

B2

B3 2人死亡

免震階 2人死亡



ウレタン製断熱材

ガスバーナーで鋼材を切断中・火花が引火

都内のデータセンター新築工事において、地下3階で鉄骨部材を切断中、溶断火花が床下（免震階）天井面の断熱用発泡ウレタンに着火した。（報道による）作業員3人のうち、火気使用者は1人、1人は飛び散った火花の消火役、もう1人は下階で火花監視役、火が付いた直後、水や消火器で消火したが間に合わなかった。（作業員5名死亡、42名負傷（内25人重傷））

【他社事例2】

他社 火災事故 2022.10.25



建替え工事中の地方公共団体庁舎(25階建て)において、24階の人荷用エレベーターロビーで天井の鋼板をガスバーナーにより切断した際、天井裏に敷き込んであった断熱材（ポリスチレンフォーム）に着火し燃焼した。可燃物である断熱材が目視できない場所でガス切断作業をしたことが要因(当該地方公共団体発表)。火災発生時、24階には10人の作業員がいたが負傷者はいなかった(報道発表)。